

『一本の 道に日本の 底力』

～平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語
入選作品決定のお知らせ～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日
主催：国土交通省
後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省
協賛：100団体程度（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えて頂くことを目的に、平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集しました。国土交通省ホームページなどで募集を行ったところ、全国各地から7,798作品もの応募がありました。

これを受け、審査懇談会を開催し、3名の審査員（三好礼子氏（エッセイスト、国際ラリリスト）、やすみりえ氏（川柳作家、文化庁審議会分科会委員）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト））による厳正な審査の結果、最優秀賞3作品、優秀賞6作品が決定しました。

◆平成24年度の入選者・作品◆

※発表内容は応募時点

最優秀賞（3作品）

『つなげよう 僕の道から きみの道』

千葉県 中村安里さん 9歳（小学生の部）

選評：「つなぐ」というキーワードはこの一年の日本のキーワードでもあった。

「僕」と「きみ」という言葉が単に個人ではなく、世界中の僕ときみにつながるような広がりのある標語である。

『いつの日も 歩きたくなる 道がある』

神奈川県 鈴木裕也さん 14歳（中学生の部）

選評：「道を友だちにしている」感じがよく出ている。

きっと大人になってもその道を思い出したりするのだろう。優しい感性が感じられる。

『一本の 道に日本の 底力』

徳島県 今田紗江さん 44歳（一般の部）

選評：東日本大震災から一年を経過した今年ならではの句。

力強い直球のメッセージを発している。
道の上に青空が見えてくる。希望が見えてくる。
この標語から日本中に希望と自信が発せられることを期待する。

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

『ありがとう 未来へ続け この道路』

新潟県 大矢裕介さん 12歳

『この道で 今日も出会いが 生まれてる』

鳥取県 池上流彩さん 12歳

【中学生の部】

『決めたから この道行くよ どこまでも』

富山県 山本桃子さん 14歳

『人と人 つなぐところに 道がある』

宮崎県 川野友裕さん 13歳

【一般の部】

『明日もまた 道の向こうに 待つ笑顔』

神奈川県 内河裕信さん 52歳

『うまいくく そんな風吹く 今日の道』

石川県 前田千文さん 42歳

◆審査委員◆（総合選評）



三好礼子 委員

（三好委員）
例年より、自分の感情を正直に表したものが多く、表現したいこといっぱいある気がしました。やはり道と人々の心というテーマをいつもより感じられたからでしょう。希望につながる標語も多く、詠んでいてこちらが元気をもらったり、大笑いしたりしました。ありがとうございました。



やすみりえ 委員

（やすみ委員）
最優秀賞はとてもメッセージ性の強い作品で、どの世代の人の心にも響くのではないのでしょうか。各部門とも、時代にマッチした標語が揃ったと思います。



吉岡耀子 委員

（吉岡委員）
明るさと未来を感じさせる作品が多かった。東日本大震災の中から、人々が立ち上がってきた時、生活に密着した道路に目が向けられてきた、そんな感じの明るさ・強さ・優しさに満ちています。

<お知らせ>